

有害情報とは、青少年健全育成条例などで指定される有害図書のように、子どもの心身の健康や健全な発達に悪影響を与える可能性のある情報を指す。刑法犯罪として発信自体が禁じられる禁制情報のほか、暴力、セックスなど、大人向けには問題がなくても子どものアクセスには不適切であり制限すべき情報がある情報アクセス制限の是非については議論もあるが、児童の権利に関する条約でも、子どもがすべての情報にアクセスできる権利を認めながらも、保護の観点から必要な場合には制限すべきことも規定されているところであり、自由と保護のバランスを図ることが必要であろう。

特にインターネットでは、子どもたちが有害情報に簡単に触れることができ、理解力や判断力が未熟な者にその手段を与えることへの懸念の声も当初大きかった。しかし、教育学習活動におけるメリットの大きさ、IT能力養成に対する社会的要請もあり、フィルタリング技術の援用など適切な保護策を講じながら使わせることが主流となり、平成14・15年に施行する新学習指導要領でもインターネットの使用が想定されている。

■発信側の対処

詐欺など犯罪となる禁制情報の発信は差止め可能だが、その他多くの場合は表現言論の自由の観点から差止めできない。大人向け情報提供サイトの中には児童に対する発信を自粛するものもある。

■受信側の対処

一般的には受信者自身が適否を判断して選択的に受信することになる。未成年者については、判断力育成の視点を持ちながら、周囲の大人が保護監督者の役割を持つことが必要である。フィルタリングソフトを用いてある程度自動化した選択的受信も可能となっている。

■コンテンツフィルタリング技術

フィルタリングソフトには、家庭など個

別環境での使用に適した単体のパソコンで動作するタイプのもと、インターネット・サービス・プロバイダーや学校での集団的な使用に適したプロキシサーバーで一括制御するタイプのものがある。

また、フィルタリング方式にはURLリストをアクセス制御リストとして用いる方式と、特定のキーワードを含むか否かで閲覧を制限する方式がある。URLリスト方式には、閲覧許可URLリストを用いるホワイトリスト方式と不許可URLリストを用いるブラックリスト方式がある。

きめ細かなフィルタリングを行う 規格PICSをめぐる動向

プロキシサーバーのACL機能を用いるなど単純なURLリスト方式では可否の二値しかないが、これを改良し、内容の程度に応じた格付け情報をもとに受信者の状況に合わせてきめ細かく規制の厳しさを調整可能な多段階レーティング方式が開発されており、主流となりつつある。W3Cで開発されたPICS (the Platform for Internet Content Selection) は格付けラベル情報の規格として有力であり、ブラウザではMicrosoft Internet ExplorerがContent Advisor機能で、Netscape NavigatorがNetWatch機能でPICSに準拠しているほか、市販フィルタリングソフトでもPICS準拠への対応が進みつつある。PICSのラベル情報はラベルビューローと呼ばれるWWWサーバーにより無償または有償で提供され、準拠ブラウザなどのクライアント機能でアクセス制御のために利用される。

PICS準拠のラベルには、情報発信者自身が格付けを行う自主レーティングと、外部機関が格付け情報を提供する第三者レーティングとがある。

国際的なレーティングに向けた ICRAの設立と今後の動向

PICS自体は技術的な規格であり、格付けの具体的な基準はさまざまな組織が任意に決めることができ、実際にいくつかの種類があるが、国際的連携の必要性から国際的基準作成の動きもある。

草分けであるRSAC (Recreational Software Advisory Council) が1996年に開発した基準RSACiは、米国では自主レーティングの実質的な標準であり、メディアが子どもに与える影響の研究成果に基づいて、暴力、ヌード、セックス、言葉のカテゴリーを持ち、インターネット上のコンテンツが、各々のカテゴリーに関して0から4までのレーティング値で格付けできるものである。これをベースに、欧州や日本でも各文化に適応した拡張を施した格付け基準の開発をしている。今後は特定の国の文化的価値に拘束されずにコンテンツの格付けを客観的に記述し、異なる国の利用者が自分自身に適したものを決める際に自身の価値観を適用することができる国際的な格付け基準の実現が必要である。そのため、1999年5月にRSACを吸収する形でICRA (Internet Content Rating Association) が設立され、国際的なレーティング基準の実現に向けた活動を展開している。日本では電子ネットワーク協議会 (ENC) がICRAに参加し、日本とアジア圏でのレーティング基準の確立に向けて活動している。電子ネットワーク協議会が運営するラベルビューローSafety Onlineは、現在約30万件のラベル情報を持ち、レーティング/フィルタリングプロキシサービスを提供するほか、ユーザーグループ別制御機能を持ったサーバー型フィルタリングソフトSFSの開発・配布を行っている。

(高橋邦夫 千葉学芸高等学校)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp